

News Letter

発行
 特定非営利活動法人子どもシェルターモモ
 〒700-0838 岡山市北区京町11-8
 電話086-206-2423 FAX086-237-0634



CONTENTS

- ・巻頭言…………… 1
- ・特集…………… 2～3
- ・インタビュー「人」…………… 4
- ・「モモの家」通信…………… 5
- ・「あてんぼ」通信…………… 5～6
- ・「学南ホーム」通信…………… 6～7
- ・「アフターケア」通信…………… 7
- ・事務局だより…………… 8

表紙絵の言葉 内村 暁

「うっかりものの秋」
 夏に迷子になっちゃって
 やっと遅れて着いたけど
 かんじんかなめの絵の具箱
 どこかに忘れてきたみたい

しかたがないのでポケットの
 夏のかけらの空色を
 知らん顔して塗りました

巻頭言



みなさん、こんにちは。
 私は、2024年6月子どもシェルターモモの理事長に選任され、約半年が経過しました。この間も色々なことがありました。スタッフの皆さんの頑張りと、ボランティアの皆さんや役員の皆さんの協力や、皆さんの応援のおかげで、就任直後の半年を乗り切ることができました。深く感謝いたしますとともに、今後ともよろしく願いいたします。

この間、7月に職員4名で子どもシェルターモモの家を再開することができました。広々とした申し分ない物件です。シェルターは、目標として年間12人以上の新規入居を求められています。執筆時点で5名の新規入居がありました。比較的短期間で次の行き場を見つけることができています。

学南ホームは、利用者の意向を尊重し、自立に向けた支援を続けています。家庭裁判所からの要請に応じて試験観察中の子どもの受け入れもしました。

あてんぼは、子どもたちの行動がエスカレートし

NPO法人子どもシェルターモモ 理事長 **井上 雅雄**

たため、理事や他のホームの職員が応援に入ることもありました。子どもたちも徐々に安定してきています。

アフターケアは、多数の利用者に対応しています。家賃滞納対応・食料支援・同行支援・他の支援機関への協力要請など活動は多岐にわたり、コーディネート力を高めています。

事務局は、経理・措置費請求・労務管理・広報・会議準備・資料整理・食料配布などを行い、活動を支えています。12月の事務局引越しの段取りを丁寧に進めてくれました。

ボランティアの皆さんは、スタッフ補助・お弁当作りなどで活動を支えています。

今年度、連携団体の協力を得て「みんなが集まる博士の家」で、毎月第3土曜日午前11時から午後3時まで「モモカフェ」を実施しています。カフェの運営はホームの職員と利用者・OB・OGが一緒に行うことで就労支援の効果を期待しています。

今後、社会福祉法人化を目指して、規定の整備を進めます。

退居した若者たちの声

2025年で子どもシェルターモモ開設16年目に入ります。子どもシェルターモモに関わった子どもたちは約230人になります。設立当初より、子どもの意見を尊重し対応する中で、個々に応じた支援が暗礁に乗り上げることも一度や二度でなく、理事や職員で力を合わせて頑張ってきたように思います。時折、子どもから「元気にしているよ。ありがとう。」と近況を知らせる連絡を活力に変えてきました。今回、アフターケア事業所enで関わる若者から「モモの思い出や感想・メッセージ」を集めてみました。

*用語説明：文中の「モモ」はNPO法人子どもシェルターモモ、「あてんぼ」は女子自立援助ホーム、「学南ホーム」「おおもと荘」は男子自立援助ホームです。

モモに出会えたことが今の幸せにつながった

Aさん

私は17歳の時に"モモ"と出会い「あてんぼ」での生活を経て、一人暮らしをはじめるときにアフターケアへお世話になりました。一人暮らしも始まり、寂しさや不安もあるなかで、週に一回モモの事務局に行き、モモで用意されているネイルや、アイロンビーズ、プロジェクターでYouTubeを観たり、モモの職員との雑談であったり関わっていくなかで信頼できる職員とも出会いました。気持ちがしんどい時だったり、色々な出来事が起こる日々であっても、モモに行くとそんな辛い気持ちも少し忘れられたり、私にとって、モモに週に一回通うことが1週間のなかで、1番の楽しみでもありました。

モモと繋がりがあがる企業の社長さんのご好意で2つの職業を経験することができ、仕事をするということに1歩踏み出せなかった私にとって、とても良い経験をする事が出来ました。

モモに出会うまでは、辛い出来事だったり、大人を信用出来なくなったり、沢山辛くてしんどい思いもしてきたけど、私の"今"があって、私の今の"幸せ"があるのは、モモの熱心な関わりやサポートがあったからこそだと思います。これからは、頼りになる"実家"の様な存在として関わり続けていけたらと思います。

どんな私でも受け入れてくれてここまで導いてくれた、モモには感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。



栄養満点のお弁当

Bさん

ホームを出て一人暮らしを始める時に必要な手続きや家具と一緒に買いに行ってくださいとすごく感謝しています。また、保険や奨学金について相談した時にもアドバイスをもらいすごく参考になりました。

また、事務局に伺った時には快く迎え入れてくださり、いろいろと話を聞いてくださいました。すごく嬉しかったです。

私は自炊をすることが少ないので、野菜をあまり摂りません。モモは1週間に1回お弁当を作ってくださいるので、栄養満点の野菜を食べています。

初めて大人に寄り添ってもらえた経験

Cさん

モモに引き受けられた時、予定外のトラブル等で自立援助ホームへの入居のはずが急遽、シェルターに入所することになりました。

その後、シェルターからホームへ、ホームから一人暮らしの話が出た時に、社会に出たばかりで色々な刺激を受けて体調を崩しがちだった私を、職員が必死に守ってくれたことが嬉しかったことを覚えています。社会に出て初めて、信用できる大人に寄り添ってもらった経験になりました。

その後、結婚、妊娠中、出産後も沢山サポートしてもらいました。「無理なことは無理」と言われたけど、できる限りの事をしてもらいました。そのおかげで、うちの子たちを育てる事が出来たと思います。何より、他県に実家がある私に、新たに岡山にもうひとつの実家が出来たことも嬉しいことだな(笑)。

アフターケア事業所enの推しポイントを紹介します！

生活費の管理をしてもらえる

若者が集まる企画をしてくれる

親に相談しにくいことでも相談できる

食品を頂ける

居心地がいい

新しい衣類をいただける

気軽に相談できる

履歴書の書き方や、自立を手伝ってもらえる

自分の意見を応援してくれる

なんでも話ができる職員や、ボランティアさんがいる

資格試験・学校の課題を教えてくれる

野菜がいっぱい入った手作り弁当を頂ける

引っ越しの相談に乗ってもらえる

*コメントは複数の若者から寄せられた声を集めました。

手作りお弁当の人気メニューの紹介

子どもたちに人気のおかずを紹介します。

第1位



唐揚げ


アンケートではその他、卵焼き・ピーマンの肉詰め・チキンカツ・ハンバーグ・焼き鳥・スパムおにぎり、そして「んーぜんぶ」「全部好きです、何が一番好きですかと聞かれても答えられません」といった声もありました。


子どもたちにおいしい手作りお弁当を食べてほしいなと思いながら、毎週木曜日に作っています。


特に、フードバンクなどから頂くお野菜、Costcoの寄付金で購入したお肉も使い栄養満点のおかずを作っています。


子どもたちからの、「おいしかったよ」と聞こえてくる感想を糧に頑張っています。

アフターケア職員からのメッセージ

 一人暮らしを始めると、「シェルターやホームのありがたさを痛感する」と子ども達から聞きます。これからも、安心できる居場所になるよう、職員やボランティアと一緒に考えていきたいと考えています。

 アフターケアの関わりは「成果」「充実感」がすぐには得られないことを心得ています。そんな中で、このような言葉を聞かせていただいたことは、ご褒美をいただいたようです。ありがとうございます。これからも頑張ります。

 家族の後ろ盾がない中、若者が一人で生活をする大変さを近くで感じています。精一杯今を生きる若者たちと一緒に悩んだり笑ったりしながらエールを送り続けたいと思います。

 若者たちのメッセージを見ながら、これまで関わってこられた方々の支援が届いているんだなと嬉しくなりました。これからも、色々な人と出会って笑顔や温かさに支えられて共に育ちたいと思いました。

水島こども食堂ミソラ♪
みんなのお家ハルハウス

代表 井上 正貴 さん

みんなで支え みんなで変える

倉敷市水島地区は人口約9万人で、西日本有数のコンビナートがあります。2017年からこの地で子ども食堂の「水島こども食堂ミソラ♪」がスタート。20年には悩みを抱えた人たちも気軽に立ち寄れる常設の居場所「みんなのお家ハルハウス」が開設されました。生活困窮家庭や孤独に苦しむ人たちとの交流を重ね、活動を続ける代表の井上正貴さん（42）に聞きます。

コロナ禍で必要性高まる支え

困窮家庭の子どもたちの学習支援をしていたところ、子ども食堂立ち上げにかかわりました。2017年、水島商店街の事業所内で月1回、食事の提供を始めたのです。毎回50～60人が利用しました。スタッフはボランティアでアットホームな雰囲気でした。

20年初め、新型コロナウイルスのため休止せざるを得なくなりました。そこで「フードシェア会」をこの年の3月に始めました。希望する方々にSNSなどで募った米などの食料品、生活用品などを持ち帰ってもらいました。

ところが、新型コロナ感染拡大で行動制限が厳しくなりこれも休止。思いついたのが、お困りの方の自宅まで車で届ける戸別配布です。車を持っていない人にも感謝されました。車で回っていると、さまざまな困りごとの声を聞き、人とつながることもありました。

常設の居場所でニーズ対応

活動を続けていると、困りごとがあったとき気軽に相談できる場所の必要性を感じました。もちろん食料や生活用品は大切ですが、幸せを得るには心の飢えを満たすことも重要であると思ったのです。

そこで20年、水島小学校近くの一軒家を借り、常設の居場所となる「みんなのお家ハルハウス」を開



設。「ハル」とはかつて私が過ごした奄美大島（鹿児島県）で「瑠璃（るり）色の波」という意味があります。

ハルハウスではフードシェア会だけでなく、ひとり親家庭を招いた食事会、支援者の交流やミーティング、食料の備蓄の場所としても活用しています。12月のある日、10代の男の子が「食べ物が欲しい」と尋ねてきました。家庭に居場所がなく、寝る場所にも困っているようでした。関係機関と連絡を取ったうえで、しばらくお預かりしました。居場所をつくったことでこうしたニーズにも対応できるようになりました。

活動楽しみたい

コロナ禍で休止だった子ども食堂は23年6月に再開。ハルハウスから歩いて3分ほどのコミュニティー会館で月1回のペースで開き、学校給食のない夏休みには「宿題ごはん会」をしています。

困窮家庭が無料で食事ができる方法はないか？思いついたのがチケット制のカレー事業です。善意の食事チケットを購入していただき、そのチケットで困っている人がカレーを食べる仕組みです。おかげさまでカレー作りには詳しくなりました。

「水島こども食堂ミソラ♪」に♪マークがあるのは、活動そのものを楽しみたいからです。ともに悩み傷つきながら感じるのは、苦労の中に豊かさがあり、貧しさの中からひねり出す知恵があれば苦難を乗り越え幸せになれるということです。幸せな社会を実現するために、みんなで支え、みんなで変えていきたいです。

（文責：江草）

「モモの家」通信

これまでにない酷暑を乗り越え、次は寒い季節に向けた準備について考えているところです。前回のニュースレターでお伝えした通り、新しい場所が決まりました。そして新しいスタッフと共に開設に向けて準備を続け、開所と同時に子どもを受け入れることもできました。

場所が変われば動線が異なることになる為やはり初めは違和感がありました。しかし戸惑いながらもそれ以上にワクワクする気持ちがあり、いつもより入居の時のお出迎えは気合いとテンションを抑えることになりました。

今回の受け入れでは、新しいスタッフの加入で顔ぶれが変わったというだけでなく、これまで職員3人だったところが4人になったのです。1人増えるだけでこんなにも時間と心にゆとりができるのかと驚くばかりです。全部1人でしないといけないと焦ることなく一部をお願いできるというのはとても有難いです。新しいスタッフもそれぞれの背景があり人生経験を持たれているので、新しい職員集団の関係性がこれからどのようなものになっていくのか楽しみです。得意不得意はあると思いますが、お互いにフォローし学びあうことが出来ればと思います。

さて、近況をお話ししますと、子どもが入居する前は、家のメンテナンスに勤しんでいました。すぐには気付かなかった網戸や障子の破れなどが意外とあったりするので、見つけたその時は即DIYチーム



障子貼り作業の様子

に変身です。自分たちで出来るものは自分たちの手で。障子張りでは古い紙を剥がしたところで新規入居がありました。その子どもを誘ってみるとのってくれたので一緒に作業をしました。初めてにしては上出来だね！という出来具合で、次はもっと上手にもっと効率

よく出来る気しかしらないねと称え(?)あいました。その他にもピザを焼いたり、餃子を包んだり、クレープを作ったり、食べる事でも色々と一緒にやっています。大変なものを抱えている子どもたちではありますが、日常生活としてはとても平和に過ごしています。このような些細なやりとりでも、何かしら思い出として残ってくれると嬉しいなと思います。



(文責：HM)

一緒に作ったケーキ

「あてんぼ」通信

年末が近づくとつれて「もう11月よ…今年も早いわ～」と子どもたちが口々に言っているのを聞き、今年もあっという間な1年だったと実感しています。そんな中、今年度は、1人が退居となり、新しく2人が入居してきたことで、現在6人の子どもたちと共に日々を過ごしています。

さて、2015年6月に公職選挙法が改正され、選挙権

年齢が18歳に引き下げられたことで、あてんぼでも18歳を迎えた子のところに投票所入場券が届きました。本人に確認すると「行く」と意思表示してくれたので、彼女にとって初めての場面に立ち会うことができました。私自身、選挙権年齢が引き下げられたあとに18歳を迎えたので、なんとも言えない緊張感と大人の仲間入りをしたかのような、そんな気持

ちが少しばかり分
かった気がしました。
投票後、どうだっ
た？と聞いてみると
「周りみたら若い人
私らしかおらんかつ
たな。なんかよく分
からなかったから、
名前を決めたわ」と
率直な感想を教えてくださいました。



初めての投票所

また、最近では昼から夕方頃の時間帯にリビングで過ごす子どもたちが増え、ここでも“初めて”のことに直面しました。ある日の夕食づくりの際、一緒に餃子包まない？と声をかけると、快く承諾してくれ、60個もの餃子を一緒に包んでくれました。「初めて餃子包むわ、どうやってするん？」と1つやって見せると、見よう見まねでするのですが、本当に初めて?!と思うほどの出来栄えに驚かされま

した。作業をしながら「今度ユニバ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）に行くんよ、行ったことある？私行ったことないんだけど美味しいご飯屋さんってある？やっぱり人が多いかな〜」などと、ゆっくりお話することもでき、忙しい日々の中のふとした癒しの時間でした。

あてんぼに入居している期間というのはたった数年で、人生のほんの一瞬だと思います。

これから先色々な“初めて”に出合うだろうと思いますが、1つでも多くの“初めて”を入居している間に経験してほしいなという気持ちになりました。



初めての餃子作り

(文責：西)

自立援助ホーム

「学南ホーム」通信

ホームの子ども達は、相変わらずカードゲームに熱中する子が多いです。一方で音楽の趣味が合う子どももいて、一緒に電子ピアノを弾きセッションする姿も見受けられます。

イベント事としては、8月に子ども達と海に行きました。全く運動しない子どもが誰よりも海ではしゃぐ姿が印象的で、普段見ることのない一面を見ることができました。この時、自動車免許を取ったばかりの子どもが「皆を乗せて運転してみたい」と言うので、運転する機会を設けました。少し緊張していましたが安全運転で無事に皆を送り届け、どこか自信がついたよう

に見受けられました。子どもが成長する姿をまじまじと体感し、職員としても大変嬉しく思っております。



海での様子

また9月にはホームでBBQを行いました。定期的で開催しているおかげか、子ども達が段取りよく準備や片付けをしてくれます。小さなことですが、こういった準備、片付けを「他人任せにはしない」ということをホームでは大切にしています。子ども達にも「やってもらうのが当たり前じゃない。準備して片付けるまでがイベント」と日頃から話をしていきます。その結果こういった当事者意識が少しずつ彼らの中に芽生えており、特に最近、その意識を垣間見ることが増えました。イベント事を通して子ども達と関わる意義はこの辺りにあると思いますし、今後はより子ども

(文責：原田)



楽しいBBQ

アフターケア「en」通信

秋が深まり、夜の寒さが強まってきました。アフターケア事業所enでも冬服を取りに、「しえある一む（子どもが必要なものを持ち帰ることができるシステム）」を利用する人が増えました。



しえある一む

アフターケアでの仕事を実際経験してみて、一人暮らしや結婚生活を送っている若者たちの現状は諸刃で、毎日、色々な事が起き、その対応に大変さを実感しています。一人になって心細く、だけど解放たれて自由を楽しんでいる、時折事態が手に負えなくなってヘルプを出してくる、これを繰り返しながらモモとの関係が深くなっているなど感じています。

enだけでなく、事務局やボランティアの方々、理事の方々、関わって下さっている皆さんとのやり取りが若者たちにとって安らぎのある時間になっていることは若者たちの顔を見てるとよくわかります。「モモに出合わなかったら今の私はない」「いつもありがとう」「助かる」「疲れてない？」と面と向かって労いの言葉をくれることも多いです。いろいろな大人に囲まれて、これから生きていくうえで困ったときにふっと頭に浮かぶ、そんな存在になっているのではと思います。

10月はとても忙しかった1か月で、住まいを失った若者がこんなにもいるのかという現実をみました。支援後も安定は長続きするとは限らず、何かしら支援が必要になることも多いのです。何とか一人暮らしまでたどり着けたけれどその先の困難は未知で、それでも何とか生きていっている。いつも人間の強さを感じます。いろんな若者や支援者との出会いがあり、アフターケアの仕事の幅広さに驚くことが多かったと省みています。

アフターケア事業所enに集う若者たちはいつも来る顔見知りもありますが、関わりだして間もない若者が来た時には、声掛けをして迎え入れてくれ、時には問題も起こりますが微笑ましく思うこともよくあります。色々なストレスがあるけれど、笑顔や優しい言葉、冗談に癒される毎日です。

enでの日が浅い私はこの目まぐるしさについていくのがやっとなで、忙しい時には昨日の記憶も飛びつがあります。頑張っって冷静に仕事が出来る様に、早くなることができればと思っています。

(文責：伊澤)



子ども達の過ごすリビング

事務局の引っ越しのお知らせ

長い間子どもシェルターモモの事務局、そして子ども達の居場所として過ごしてきた清輝橋の建物を出ることになりました。

引っ越し先は前の事務所から川沿いを歩いて1分ほどの場所です。11月より少しずつ引っ越し作業を始めて、12月に引っ越し完了しました。慣れ親しんだ場所を離れるのはさみしい気持ちもありますが、新しい場所で、新たな気持ちでスタートいたします。



【新住所】
岡山市北区京町
8-11



事務局だより

赤い羽根共同募金会 ～「地域から孤立をなくそう」 ささえあいプロジェクト～ にご協力を

このプロジェクトは、1月1日から2月28日の期間に、専用の郵便が替用紙で募金をして頂き、集まった募金に計算して社会福祉法人岡山県共同募金会から助成して頂けるというものです。

今回のご寄付はスタッフの子どもへの対応力の向上を目的とした研修会の開催等と、ホームページを子どもにとっても見やすいものになるよう改良するために活用させていただきます。ぜひご協力をお願いいたします。

※お振込みの期日を過ぎますとモモの寄付として扱われませんので、くれぐれも期日内のお振込みをお願いいたします。

イオン「黄色いレシート」に参加しています



このキャンペーンは、毎月11日にイオンモール岡山に設置されている専用の投函BOXへ黄色いレシートを入れると、レシートの合計額の1%が子どもシェルターモモに寄付されるものです。また隔月でボランティアさんにも協力いただいて店頭に立ち、モモを知っていただく活動も行っています。

毎月11日にイオンモール岡山でお買い物の際は、ぜひレシートの投函をお願いいたします。

Amazon欲しい物リスト

子どもシェルターモモではAmazonの「欲しい物リスト」からも全国各地の方々から下記写真のように沢山のご寄付をいただいております。いただいた物品は各ホームやアフターケアの子どもたちの為に有効に活用させていただきます。ご寄付くださいました皆様、本当にありがとうございました！

欲しいものリストは定期的に更新しておりますので、引き続きご支援いただくと幸いです。

Amazon
欲しいもの
リストはこちら



ご寄付を頂いた方々 (敬称略) 2024年7-12月

- アライブ岡山 ■一般社団法人若草プロジェクト ■岡山県立成徳学校後援会 ■岡山北西ロータリークラブ
- 岡山北ロータリークラブ ■コストコホールセールジャパン株式会社 ■特定非営利活動法人ジャパンハーベスト
- 社会福祉法人山陽新聞社会事業団 他 匿名希望 12名

- ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へ
ご送金いただければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835

特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付で
ある旨をご記入いただけますと幸いです)

- クラウドファンディングによる
寄付も受付中



編集後記

特集は温かな気持ちになります。開設15年を記念し、アフターケアで関わった皆さんから感想やメッセージを寄せてもらいました。不安感でいっぱいだったとき、職員が大きな支えだったことが分かります。絆を力に子どもシェルターモモは前へ進むのだと思います。(文責：江草)

この広報誌は(株)ベネシードの支援を受けて作成しています。